

不発弾問題とCOPEビジターセンター

○背景

・ラオス国内には、1975年までのベトナム戦争中に2～300万トンの爆弾が投下され、世界最大の不発弾（UXO: Unexploded Ordinance）汚染国。今なおUXOによる被害が多数（2016年の被害者数59名 死亡：男性2名，男児8名 負傷：男性17名，女性3名，男児24名，女児5名）。国民の安全・安心な生活と開発の大きな妨げとなっている。

・2014年以前は住民からの要請に基づきアドホックに除去が実施されてきたが、近年は住民への聞き取り等のエビデンスに基づき不発弾の存在が確認された土地を計画的に除去する方針に転換。

・さらに、探知機を用いた全国的な調査が開始され（2016年9月オバマ大統領（当時）がラオス訪問した際に9千万ドルをプレッジ），2021年を目処に確度の高い汚染地域分布が得られる見込み。一層計画的な除去活動が展開されることが期待。

○現状/我が国の支援

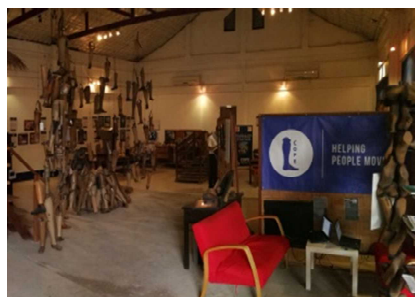
- ・我が国は1999年の国連地雷対策支援信託基金（UNMAS）を通じた支援を皮切りに現在に至るまでハード・ソフト両面からの支援を継続。
- ・UXO Laoを支援する個別のドナー国として、我が国は最大の支援国。ハード・ソフト両面から効率的な除去活動を促す我が国の支援は、ラオス政府・他ドナーからも高い評価。
- ・現在実施中の協力
 - 「不発弾除去組織における管理能力強化プロジェクト」によりアドバイザーを派遣し、計画的な除去活動の実施・モニタリング等UXO Laoのマネジメント能力の強化、カンボジア・CMACとの南南協力の促進を支援（技プロ，2015年9月～2018年9月）。
 - 灌木除去機の導入・トレーニングや除去活動拠点の整備，除去活動費を支援（平和構築無償，2015年～2018年4月末完了予定，約8.5億円）。
 - JMAS（日本地雷処理を支援する会）が不発弾処理機や爆弾カット法による安全かつ効率的なUXO処理方法の導入を支援（NGO連携無償，2017年9月～2018年9月（平成29年度分），約59万ドル）。

○COPE (Cooperative Orthotic and Prosthetic Enterprise) ビジターセンター

- ・UXO等の被害により義肢義足が必要な障害者への支援等を行うラオスローカルNGO（USAID，ノルウェー，国際NGO，プライベートファンドからの拠出により事業を実施）が運営し，UXO問題の普及啓発を行う施設。平成19年度に我が国草の根無償で義肢義足製作用機材を供与した実績あり（約5万ドル）。



展示(クラスター弾子弾拡散の様子)



義手義足の展示